

## 補助金対象事業報告書(平成24年度)

法人名	特定非営利活動法人 生涯学習 知の市庭 (平成 14 年 3 月法人設立)		
事業名	「被災地発 まさかの時、保存食をおいしくつくる、食べる」講座へ生き抜く実践		
事業費	380096円	補助金額	250000 円

### 1 助成対象事業費内訳(実績)

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	35560円	70096円	
	参加費・資料代等	40000円	60000円	参加費2000円・一人
	その他の収入			
	NPO支援基金助成	250000円	250000円	
	計	325560円	380096円	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	88000円	88000円	講師謝金2回×2日 スタッフ8000円×6名
	旅費	82560円	113220円	新幹線東京-新神戸・往復 3人 88020円 宿泊 坂本廣子 岡野房子(2人)25200円
	備品費・消耗品費	80000円	64026円	ポスター印刷費21000円 チラシ印刷6700円 インク・用紙・ネームカード13398円 食材18291円 写真代4637円
	役務費	6000円	5060円	宅急便5060円
	使用料・賃借料	63000円	44100円	市庭スタジオ使用料 3000円(1時間)×14時間(2日) プラス消費税
	その他の経費	6000円	65690円	スタッフ受付片づけ 6,000円 講演録作成費 活動パネル作成費 45,000円 ハレパネ(A1)10枚購入 10,290円 A1コピー11枚 4,400円
	計	325560円	380096円	

## 2 事業の目的・内容

<b>目的</b>	阪神・淡路大震災の記憶が薄れていくうちに、今回の東日本大震災が起きました。被災地で生き抜く力を発揮した方々が知らせる、まさかの時に役立つ台所防災術や自前流の防災グッズの便利な活用方法を皆さんと考えます。 起こり得る地震に備える生き抜く座学と実践調理講座です。
<b>計画内容</b>	「被災地発 まさかの時、防災食をおいしくつくる、食べる」講座～生き抜く実践講座 時期：平成24年10月6日、7日 2日間シリーズ メイン講師：坂本廣子(坂本キッチンスタジオ代表)、坂本キッチンスタジオスタッフ 会場：阿佐ヶ谷市庭スタジオ 2階

## 3 事業の実施状況

	事業計画時(予定)	事業実施時
<b>実 施 状 況</b>	<p>1 第1回(平成24年10月6日) 参加者30名-40名 講座タイトル：暮らしの台所を点検～いざという時、何が足りなくて、十分あるものは</p> <p>1)被災地からの体験報告 体験から生まれた生活術</p> <p>2)身の回りのものを活用して生き延びる技</p> <p>3)救急蘇生術としてのAED心臓マッサージ、気道確保術等の体験</p> <p>5)その他</p> <p>2 第2回10月7日(日)午前の部15名-20名 午後の部15名-20名 講座タイトル：「限られたエネルギーで温かいものを食べる」～調理実習(2班体制)</p> <p>1)煮炊は短時間、水も節約調理・・・調理メニュー例示：炒り豆ごはん等</p> <p>2)少ない水でおいしく調理</p> <p>3)缶詰の活用・・・調理メニュー 4)その他</p>	<p>事業計画と同じ 参加者30名 内訳 町会自治会4名 学校関係者6名 (子ども2名) 地域17名 他地域3名 会場 阿佐ヶ谷市庭スタジオ</p>

## 4 実施事業の効果・成果

	事業計画時の「期待される効果」	事業実施後の「実際の効果・成果」
<b>効果・成果</b>	<p>1まさかの時に役立つ防災知識を身につける、その演習 自分の安全は自分と家族で守り、いざその時に発揮出来る生活、食の技を学ぶ</p> <p>2被災から、普段の生活に戻るまでの心構えと過程を学ぶ</p> <p>3台所用品、保存食材等をリスト化することにより、助け合いの精神につなげる工夫が芽生える</p> <p>4伝統食材の見直しと若い世代へ伝統食材を知らせる役目を負う</p> <p>5子育て応援券を活用予定</p>	<p>杉並区内の学校関係者、自治会、町会、主婦層の参加となったので地域の防災等のキーパーソンとして活動が期待される。</p> <p>1いざという時に役立つ防災知識を身につける、その演習。自分の安全は自分と家族で守り、いざその時に発揮出来る生活、食の技を学ぶ</p> <p>2被災から、普段の生活に戻るまでの心構えと過程を学ぶ</p> <p>3台所用品、保存食材等をリスト化することにより、助け合いの精神につなげる工夫が芽生える</p> <p>4伝統食材の会場展示を行い、伝統食材の見直しを図った。</p> <p>5子育て応援券を活用予定・・・使用せず</p>

## 5 自己評価

自己評価 1	<b>事業は当初の予定どおり実施できましたか</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった 1 杉並区内の各地域から、地域の防災関係キーパーソンに参加を募るように努力をしました。 2 地域は予定通り、荻窪・阿佐ヶ谷を中心に各地域からの参加者となりました。 3 講座内容は、事前打ち合わせを緊密に実施しました上に講師資料も概要資料を事前に頂き、スクリーンに投影しながらの講座となりました。 4 講座内容を記録した講演録も作成し配布を行いました。 5 実習について 15名×2回としましたので、混雑しないで調理が出来たと考えています。 6 実習レシピについて 幼児、子ども、シニアに必要な糖分、ミネラル等、流動食を摂取するレシピもあり実践的な調理レシピであったと考えています。
自己評価 2	<b>当初に想定していた「期待される効果」をあげることができましたか</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった 1 いざという時に役立つ防災知識を身につける、その演習 普段の生活の中で、準備可能な地震対策はなにか(心構えと事前準備)、水、明り、食糧の確保、まさかの時に発揮できる調理方法等について 2 自分の安全は自分と家族で守り、いざその時に、周囲の人たちに協力して発揮出来る生活力、食の技を学ぶ 自助、共助の必要性を考えるきっかけとなる講座であったと判断しています。
自己評価 3	<b>今回行った事業を通して、理解者や支援者は広がりましたか</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> 広がった <input type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった 地域の防災関係に関わった方々に参加(30名)を願ったので、今後、杉並区内の各場所で防災の自助、共助の考えは深まっていくと考える。荻窪・方南方面・・・学校関係者 阿佐ヶ谷方面・・・自治会、町会 新宿区、東村山の方々の参加もあった。

## 6 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	1 まさかの時、72時間を自助、共助でいかに過ごしていくのか等の関心度は極めて高い。 課題：同様の企画を杉並各地で複数回実施出来るのか？ 複数の防災メニューも開発していく努力も必要と考えている。 2 回目 3月9日 「暮らしの台所を点検～いざという時、何が足りなくて、十分あるものは 3 回目 6月に「暮らしの台所点検」阿佐ヶ谷で実施の予定  2 今後の活動 防災食講座を複数回実施したい。 別のメニュー企画を開発中 自宅平面図で家内の被害予想訓練 自分の避難路の防災マップ作成訓練 避難場所・体育館のボランティア管理手法をシミュレーションで学ぶ
----------	--

## 7 普及啓発活動について

### 普及活動

NPO活動支援基金の普及について  
1 NPO活動支援基金ロビー展示(区役所ロビー)参加  
2 NPOフェスタ参加 講座概要要録(講話)作成、講座概要パネル11枚作成  
展示会場で支援基金の募金活動実施の上寄付  
3 講座チラシ・ポスターにNPO活動支援基金事業であることを記載  
4 その他  
本件講座の参加者との連絡を密にすること並びに情報交換の場所も設定できるようにしたい。

## 8 活動状況について

